

経営品質論

担当者 長友 隆司

開講時期 前期 単 位 2

●講義の概要

経営品質賞はアメリカ国家品質賞にルーツを持つ企業革新のための賞制度で、日本では日本生産性本部管轄下の日本経営品質協議会が運営をしています。同賞は2000年代に入ってヨーロッパ、アジア各国に広がり、企業の生産性革新を目的とする活動として採用されるようになってきました。

経営品質向上活動に取りくむ企業は、それぞれの国や地域で制定された基準書にもとづき組織的な改善活動を行います。基準書はリーダーシップや社会的責任、戦略構築、組織的能力向上、顧客との関係、業務プロセスでの改善などに細分化され、到達水準に応じて評価されるしくみになっています。

本講義では、経営品質向上活動の構造や考え方を通して、日本企業がいかに戦略的に成長をはかろうとしているのか、国際的な競合関係や世界市場での優位性確保についてどのように取り組んでいるのかをディスカッション形式で理解していきます。企業の戦略を経営品質の枠組みを使って理解することは、企業の多面性を理解する上で有効な手段だと言われ、さまざまなコンサルファームが活用する手法になっています。使用するケースについては、オリジナルのケースブックを使用し、毎回、ディスカッションと基準書にもとづくアセスメントによって講義を進めていきます。

●講義の到達目標

企業評価法の一つである日本経営品質賞の手法を理解し、基本的な企業の戦略評価ができるようになる。また、戦略分析に用いるSWOT、5F、4P、3C等の具体的なツールについて、企業人が現実の中でどのように使っているのかを説明できるようになる。

●講義計画

- 第1回：経営革新とは何か
- 第2回：生産性向上に対する科学的アプローチ
- 第3回：機械論的思考から人間中心的思考へ
- 第4回：日本の復興とアメリカの生産性回復運動
- 第5回：マルコムボルドリッジ賞と日本経営品質賞
- 第6回：経営品質向上プログラムの考え方と構造
- 第7回：仮説思考による成功モデルの形成
- 第8回：企業価値評価のパラダイム
- 第9回：組織学習としての企業価値評価
- 第10回：企業価値評価から組織革新行動へ
- 第11回：経営品質向上活動の前提としての品質問題の扱い方
- 第12回：企業価値評価法と経営管理手法の連動性
- 第13回：経営革新と組織開発、リーダーシップの関連性
- 第14回：経営戦略論と企業価値評価
- 第15回：生産性向上活動の今後

●成績評価基準と方法

各回のディスカッションへの参加状況（60％）とレポート（40％）による。

●テキスト又は参考文献

テキストは指定しません。
参考資料を講義中に配付します。

●受講上の留意点

日本企業のケースを毎回、取り上げるので、新聞・テレビ等で情報に触れておいてください。